

発売中

エピソードで綴る

# 戦国武将茶の湯物語

矢部良明 著

四六判 並製 三〇四頁・口絵カラー 20

定価(本体2,700円+税)

ISBN978-4-86366-921-5

## 利休の茶の湯に対し、戦国武将の側からその推移発展を見たら——。

教養豊かな戦国武将たちによる、「名物」を駆使し、「創意」に満ちたその茶の湯とは、いったいどのようなものであったのか。歴史的変遷を背景に、武家茶の湯が扱って立つ立脚点を解き明かす。

序章 鎌倉・室町時代の武将の唐絵・唐物の趣味	第四章 豊臣秀吉・天下の覇権を握った武将の茶の湯
一、武家累代の重宝・唐絵の「半身布袋」	一、秀吉に宿る三人の茶人
二、民間に移動した後の半身布袋図	二、足利幕府由来の唐絵を尊重する秀吉
三、鎌倉幕府執権・金沢貞顕の唐物好み	三、茶道具では武野紹鷗の事跡を尊重する秀吉
四、宋元時代の文化に憧れた鎌倉・室町の武将たち	四、秀吉が収集した茶壺と茶人
第一章 さまざまな茶の湯と関係をもった室町武将たち	第五章 徳川家康・天下の覇権を握った武将の茶の湯
一、複雑化する工夫の概念、機能と鑑賞	一、とんと茶の湯には深入りしない徳川家康
二、多様化する茶の湯	二、家康と古田織部
三、土豪・古市澄胤の茶の湯	三、「駿府御分物御道具帳」に見る家康所持の茶道具
四、冷凍寂枯を謳う茶の湯の勃興	第六章 地方に跋扈した有力武将の茶の湯
他	一、史料に乏しい地方武将の茶の湯
第二章 松永久秀・天下を望む武将の茶の湯	二、山口の大内氏、その茶の湯の推移
一、泉秀の開庵の茶会	三、天文年間、地方の支配者の茶の湯いろいろ
二、若狭屋宗可の茶の湯	四、能登に拠点を張る丸山梅雪の茶の湯
三、若狭屋宗可の茶の湯	他
第三章 織田信長・天下の覇権を握った武将の茶の湯	第七章 桃山時代に活躍した戦国武将たちの茶の湯
一、武家世界を支配する新たな名物体系を樹立した織田信長	一、豊臣秀吉を介して、武将の創作茶の湯を覗く
二、信長が敷いた茶の湯御政道のこと	二、古田織部・武将茶人が茶の湯界のリーダーになる
三、信長の茶の湯	三、桃山時代を代表する武将茶人
四、織田家の文化基盤	戦国武将茶の湯史略年表
他	

発売中

# 大口樵翁 女性茶の湯のすすめ



熊倉功夫 編著

四六判 並製 二四八頁・口絵カラー 8

定価(本体1,800円+税)

ISBN978-4-86366-931-4

## 婦人に感性あること、今の世とて変わるべからず

江戸時代中期に石州流の茶の湯を大西閑斎にまなび、その娘婿となりながら、「刀自袂」を著したことで破門され、大口流を開いた大口樵翁。そこには女性にも茶の湯が広がりつつありながら、女性が表舞台に出ることを許されない時代背景があった。後半には『刀自袂』の現代語訳を掲載し、当時としては画期的であったその茶の思想と人物像に迫る。

注文書	
書店(帳合)印	条件
注文数	担当
冊	様
書名	発行 (株)宮帯出版社 京都市上京区真倉町739-1
エピソードで綴る	TEL075(四四)74747
戦国武将茶の湯物語	FAX075(四三)二八七九
矢部良明 著	ISBN978-4-86366-921-5 C0021 Y2700E
定価(本体2700円+税)	年 月 日

注文書	
書店(帳合)印	条件
注文数	担当
冊	様
書名	発行 (株)宮帯出版社 京都市上京区真倉町739-1
大口樵翁 女性茶の湯のすすめ	TEL075(四四)74747
熊倉功夫 編著	FAX075(四三)二八七九
定価(本体1800円+税)	ISBN978-4-86366-931-4 C0023 Y1800E
年 月 日	

(株)宮帯出版社

京都市上京区真倉町739-1  
TEL(075)441-7747

www.miyaobi.com  
FAX(075)431-8877